

「学ぶ」を支える基礎的読解力の再定義 概要

1. なぜ基礎的読解力が注目されるのか？

経済協力開発機構が実施している学習到達度調査(PISA)によると、日本は数学・科学の2分野では世界トップレベルであるものの、読解力分野では国際的な順位が低下傾向にあります。特に低得点層の割合が大幅に増えていることが問題で、長くて難しい文章を読む以前に、平易な文ですら正しく読めない子どもが増えていることが懸念されています。つまり、大学入試の国語で求められる高度な読解力ではなく、社会生活を営む上で必要不可欠な基礎的読解力の育成が課題となっているのです。

2. 基礎的読解力を測定するリーディングスキルテスト

(1) リーディングスキルテスト(RST)の概要

国立情報学研究所の新井紀子氏のチームが開発したテストです。PCやタブレットを使用するCBT形式で、右の表にある6つの分野にて基礎的読解力を測定します。詳細は、(一社)教育のための科学研究所WEBサイト(<https://www.s4e.jp/>)をご確認ください。

出題分野	内容
係り受け解析	文の構造を理解する
照応解決	代名詞が指す内容を理解する
同義文判定	2つの文の意味が同じかどうかを判定する
推論	基本的な知識と常識から、論理的に判断する
イメージ同定	文と非言語情報(図表など)を対応づける
具体例同定	定義の内容と合致する具体例を認識する

(2) 基礎的読解力の現状

代々木ゼミナールでは、2019年よりRSTの個人受検や実施後のサポート事業を行っています。その中で、高校生の2~3割が基礎的読解力に課題があるという現状が浮き彫りとなり、PISAの結果をさらに重く受け止めることとなりました。例えば、主語・述語の関係や指示語の内容を把握するといった、文法的なアプローチの時点で躓いている生徒が一定数いるのです。このような生徒は、教科書を読んで理解したつもりになったとしても、実際には深い理解に至っていないと考えられます。仮に定期テストや模擬試験である程度の成績を残せたとしても、本当に理解したうえで知識を活用できているわけではなく、理解が伴わないまま暗記して対処してしまっている可能性があるのです。暗記型の学習習慣が身に付いてしまうと、知識や経験に基づいて対処できる典型問題では得点できても、共通テストのような非典型問題には全く歯が立たなくなってしまいます。もちろん、支障が出るのは大学入試に留まりません。社会に出てからも契約書やマニュアルを読めない、上司の指示を正しく理解できない、といった事態に陥ってしまうことが懸念されます。こうした状況を踏まえると、授業の中で基礎的読解力に配慮するとともに、どのように伸ばせばいいのかを真剣に考える必要があるのです。

3. RSTの観点を生徒指導に取り入れる

(1) 基礎的読解力に配慮した指導

RSTの結果を踏まえると、「読めて当たり前」の文が正しく読めない生徒は意外に多く存在します。例えば、「それが指す言葉を文中から抜き出さない」という問題に取り組みさせた場合、通常は文の構造や文脈に注目して解答します。しかし、基礎的読解力が十分に備わっていない生徒は、そうした要素を考慮せず、文中の名詞だけを目で追って、「それらしい」と判断した名詞を答えとして挙げてしまうのです。クラスにそうした生徒がいると懸念される場合、以下の視点で授業に臨むのが効果的です。

①間違える生徒はいないという「思い込み」を捨てる。

どのような誤答があるか？なぜその答えに至るのか？を考える（可能であれば授業中に検証する）。

②正解に至るプロセスに「思い込み」の余地がないかを確認する。

説明した考え方は絶対なのか？例外はないのか？を検証し、生徒の思い込みを防止する。

いずれも、「教える」に加えて「学ばせる」を意識することがポイントです。決まった内容を教えることに終始せず、それを題材に何を学ばせることができるのかを検討してみてください。

(2) 主体的に読ませる指導

読解力の伸長に不可欠なのが、以下2点に基づいた「主体的に読む力」を伸ばすという観点です。

①表面的な文字情報の理解に留まらず、そこから何が言えるのか？なぜそう言えるのか？と想像力を働かせて掘り下げていく読み方。

②文章の内容に論理の飛躍や例外がないかを考えたり、筆者の主張を踏まえた上で自分の意見を整理したりするなど、論理力に重点を置いた読み方。

想像力と論理力を働かせて文章に問いかけながら読むことにより、読解における主体性を高めることができます。つまり、受け身の読み方から脱却するには、質問する力を磨くことが有効なのです。

では、読解における主体性を体感するために、以下のワークに取り組んでみてください。

【問】「縄文土器が盛んに作られた時期を縄文時代と呼び、1万年以上続いたと考えられる。」という文に関する質問を10個考えてください。

【解答例】

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ①縄文土器にはどのような特徴があるのか？ | ②縄文土器はなぜ作られるようになったのか？ |
| ③縄文土器が発見された地域はどの辺り？ | ④縄文土器を最初に発見したのは誰か？ |
| ⑤縄文土器は何点くらい発見されているのか？ | ⑥縄文土器はどこで見ることができるのか？ |
| ⑦縄文土器は海外でも発見されているのか？ | ⑧縄文時代とは今からどれくらい前の時期か？ |
| ⑨縄文時代が1万年以上続いた根拠は？ | ⑩縄文時代の次はどのような時代なのか？ |

このように主体的に読むことにより、情報量が少ない文でも大いに掘り下げることができます。授業中に生徒に質問を考えさせたり、教科書の内容を掘り下げるワークを予習・復習時に課したりすることで、特別な題材を用意せずとも読解力を伸ばす機会を創出できるのです。

4. 最後に

「読解力=国語」というイメージを持たれがちですが、基礎的読解力はあらゆる教科・科目の土台となる要素です。新しい学習指導要領で謳われる「主体的な学び」では、知識を正しく理解した上で、時に論理的に、時に自由な発想でその知識を活用することが求められます。生徒の学びをサポートするために、基礎的読解力を手掛かりにして、「学ばせる」視点を指導に取り入れてみてください。

以上